



北海道バスケットボール協会
指導者育成専門委員会

2008 / 4 / 3(木)

タクティクス (HBA指導者育成専門委員会ブログ)

NO. 21

3月28日から東京で行われたジュニアオールスターに参加されたコーチかに報告をお願いしていました。今回は女子のヘッドコーチである高島伸彦先生が原稿を寄せて下さいましたので掲載します。

ジュニアオールスター大会を終えて

女子ヘッドコーチ 旭川市立神居東中学校 高島伸彦

「昨年の悔しさを忘れず、今年こそ全国制覇」を大きな目標に、10月の第1次合宿から続いてきたオールスターチームの活動も3月28日に行われた対愛知戦に敗れ終わりを迎えました。何とも言えない、昨年以上の悔しさがこみ上げると同時にこれからどうすればいいのだろうかという思いがわいてきました。

今年のオールスターチームは176cmを筆頭に170cm以上のプレーヤーが登録選手12名の約半数を占める大型のチーム編制となりました。大会申し込み時には170cmに満たなかった選手も3月末には170cmを越えている状態でした。

心も身体もまだまだ大きく成長していく大切な選手たちにバスケットボールをプレーする上で大切な原則的な部分（視野を確保しながらプレーする、確率の高いプレーをする等）をしっかり伝えること、身長にとらわれることなく様々なポジションでプレーできるようファundamentalの習得をまず頭に入れ、1回1回の練習に取り組んできました。

本戦ですが、1戦目の対長野戦は、立ち上がりこそ硬さがとれず苦しい展開でしたが、交代で入った選手が生き生きとプレーし主導権を握りました。その後も全員出場で完勝することができました。ただ気になる点がいくつかありました。それは立ち上がりの異常ともいえる硬さと、アウトサイドシュートの思い切りの悪さとそこからくる確率の低さでした。

2戦目が決勝トーナメント進出をかけたの愛知戦です。この一番にピークを迎えるべく今まで取り組んできました。愛知選抜はU-15 トップエンデバーヘッドコーチ鷲野先生率いる藤浪中から4名、名将杉浦先生率いる若水中から2名、全中の常連である南陽中から2名などそうそうたる顔ぶれです。その他2年生ながらU-15 トップエンデバーに選出されている選手もいます。こちらが100%の状態です。初めてゲームになる相手です。普段からなかなか「絶対に勝つ

ぞ！！」という気持ちを表現しない北海道の選手たち。このゲームはなりふり構わず気持ちを前面に出していこうということでゲーム前から相当檄を入れました。それが功を奏したのかゲームの立ち上がりのディフェンスは素晴らしいものがありました。相手の日本を代表する選手たちが北海道のディフェンスを崩せずミスをする。しかしこちらのオフェンスも1戦目以上に硬く相手以上にミスを連発。それでもゴール近辺のプレーでファールをもらい何度もフリースローを得ます。オフェンスの目的はある程度達成できていたのですが、そのフリースローがことごとく入りません。そのうちに愛知もリズムを取り戻し、結局5－16のスコア。

2Qもミスが多い立ち上がりでしたが徐々に落ち着きを取り戻し19－33で前半を終了しました。点差は14点ありましたが、まだまだ勝負できる雰囲気を感じました。選手に落ち着きが出てきたことと、相手のオフェンススタイルからこちらのゾーンディフェンスが効くだろうと予想できたからです。

3Qはボールへの反応もよく、インサイドの強さを活かし北海道らしいバスケットボールで、徐々に差を縮めていきました。一時は3点差まで差を縮めましたが、終了間際にミスが続き、39－46の7点差で終わりました。

いよいよ勝負のかかった4Q。選手の気合いも十分でいつ逆転してもおかしくない雰囲気の中、ゲームは進みます。北海道は3Q同様2－2－1アライメントのプレスから3－2ゾーン。リバウンド・ルーズボールにもよく食らい付き一進一退の攻防が続きました。しかしこの1本が欲しいという時にことごとくミスが出てどうしても同点、逆転にこぎつけることができません。最後は北海道に怪我人、ファールアウトが出てゲームオーバー。最終スコアは61－65でした。

その後決勝トーナメントを見ながら「今後何が必要なのか」ということをずっと考えていました。数年前までの「これは勝てないなあ」という選抜チームはありません。各地区の現状を聞くと今後もそう出てこないと感じます。それ故にクロスゲームがかなりありました。その中で勝つために選手に必要なことは、

①ターンオーバーをなくす、減らすための基本技術の習得

・・・ミート→ドライブ（ドリブル）→ストップ→ピボット→パスorシュートの一連の流れをどのような状況でも視野を保ちながら確実に行う。

②ゴール近辺の密集地帯に正確にパスを通す技術

・・・パスを出すタイミング、パスを受ける選手のポジション取りなどが重要。

③相手の動きを予測する力

・・・常に相手を観察する。

④集中してリラックスしている精神状態を保つ

・・・緊張感、プレッシャーを楽しむ。

などがあげられます。北海道の選手（女子に限り）は①～④すべてもう少しレベルアップする必要があります。

そして何より我々指導者の力量が試されると考えます。

- I、1回1回の練習の中でこのメニューがゲームの中のどのような場面で生かされるのか伝える。
- II、ゲームと同じ雰囲気構築している。
- III、あらゆる場面を想定しながらメニューを作成している。
- IV、ゲームの中では冷静に選手の動き、ゲーム展開を見つめる確かな判断をする。
- V、特にタイムアウト、選手交代のタイミングには細心の注意を払う。

すべて当たり前のことですが、これら一つでも狂うとゲームを落とす結果に直結するのが現状です。奇抜なことをやる必要は全くありません。当たり前のことを当たり前に実行する選手を育成することが本当に大切だと痛感しました。

今回の大会でに向けた約3ヶ月の取り組みは選手にとっては大きな財産となったはずですが。ほとんどの選手が初めて経験する全国大会。その舞台で戦うためにはどのような準備が必要なのかということ。北海道代表選手として自覚と責任を背負った中でプレーすることの大変さ等。これから勝負の夏を迎える選手たちにとっては本当によい経験になったはずですが。また多くの方々から支えられてあの舞台に立てたという感謝の気持ちは今後の中学生としての学校生活にも必ず生かされるはずですが。そんな「北海道の宝」である12名に今後の活躍を心から祈るばかりです。そして彼女たちのバスケットボール人生に少しでも関わることができたことを心からうれしく思っています。

中学生の大会です。まだまだここからです。「結果よりもそこまでの課程が大切」とよく言われます。しかしこれだけの素質ある選手を任せていただきながら結果を出せなかったことには大きな責任を感じています。この悔しさ受け、さらにバスケットボールを勉強し、北海道のためにお役に立てればと考える次第です。それが役目だと考えています。

この大会を迎えるにあたり、多くの方々からの絶大なるご支援をいただきました。北海道バスケットボール協会、北海道ジュニアバスケットボール連盟の皆様、選手を快く送り出していただいた各学校の監督の皆様、すべてを受け入れ理解していただき任せていただいた保護者の皆様、練習ゲームを快く引き受けていただいた高校の監督の先生並びに選手諸君、関係して下さった皆様に心から感謝申し上げます。

HBA（北海道バスケットボール協会）指導者育成専門委員会